



第60号
平成27年2月27日

発行所
宮城県伊具高等学校
同窓会
宮城県伊具郡丸森町雁歌51
TEL 0224-72-2020
発行責任者 鈴木英晴

印刷所
佐藤印刷株式会社



実習農場を訪ねて

同窓会会長

佐藤吉市

会員の皆様には平成27年の新春を穏やかに迎えられましたこととお喜び申し上げますと共に、お元気でご活躍のことと存じ心からお喜び申し上げます。

26年度母校からの卒業生は104名であり、同窓会に入会することになります。心から歓迎すると共に、大きく世界に飛び立ち伊具高校の名声を広めて頂きたいと希望するものです。

平成23年3月の東日本大震災からの単なる復旧・復興という視点を越えて、東北地方やその周辺地域での科学技術・産業技術の革新的振興を図るため、省エネ・イノベーション支援型放射光施設（略称・東北放射光施設）の建設が提案され、東北の7国立大が連携して、東北への誘致に乗り出しました。丸森町では、保科町長をトップに、丸森町内に放射光施設を誘致しようとして、いち早く手を挙げております。放射光施設とは、電子を全長数百メートルのリング型や

線形の加速器に入れ、光とほぼ等しい速度まで加速させ、地球の力で電子を曲げた際に発生する放射光（放射能と異なる）を利用して、物質の構造を分析する装置です。この技術は、物理・化学・生物といった基礎科学から金属やセラミック等の材料科学・電子・バイオ技術・医療などの広範な分野に活用できます。現在、東北の国立7大学が東北地方に新設を目指している東北放射光施設は、リング型で周囲の長さは約300メートル、直径約100メートルです（町のホームページより）。26年度に入り、県も宮城に誘致するために産・学・官と連携し、建設を求める要望活動を知事が先頭になって国などに働きかけており、実現に向けて動きが活発化しています。この施設が建設された場合の経済効果の資産は10年間で約3200億円で、誘発雇用者数は1万4000人と見込まれています。丸森町に建設されると、町の過疎化に歯止めがかかり、町の未来を開く切り札になると期待されています（町のホームページより）。この施設の建設が丸森町に実現すれば益々伊具高等学校の未来にも絶大な影響をもたらします。ぜひ建設が実現されますよう、会員皆様にも関心を持ってもらい、積極的に誘致活動の支援を願うものです。

私は昭和41年入学、44年の農業科卒業であります。63名の同級生の実習農場は数か所に分散しておりました。園芸・水田・養蚕・林業・畜産と実習地が別でした。畜産の農場は根っ子入農場・梅の木平農場と学校にあつた畜舎だつたようです。卒業後45年近くなりますが、その後は訪ねたこともなく同級生の話題にもならず、気に掛けることもありませんでした。新年になつて同級生的一条功君と、久しぶりに見学するために出掛けました。母校旧体育館の裏側、県道からの入口は、雑貨屋もなく改良されて広くなつていました。その後の道路は実習で歩いて通つた時と変わらなかつた。道中約40分位はかかつたように記憶しておりますが、道中友とどんな話をしていたかは、一条君も覚えていないし、「忘れた。」と2人で笑うだけでした。軽トラックで10分もかからずに、根っ子入農場に到着し、当時はきれいに石垣で積まれた段々が10数枚あり（左右にあつたと記憶）、道路の左側には桑園・牧草畑・

養鶏舎・豚舎があつたわけですが、左側は全て草地に変わつており、管理されきれいな眺めでした。管理には気を遣つているようで、まずは安心しました。道路の上部の右側には管理舎とボイラー舎があつて、当時は生活科の生徒が宿泊し、鶏と豚に餌やり等の世話をしながら、1週間交替で通学し、授業終了後根っ子入農場に帰舎したと聞きます。その建物は全てなくなり昔の面影はなく、草地の状態で管理されていきました。太さ50センチメートルくらいになつた桜が残り、左側には池があつたように見える状態になっていました。その後、軽トラックで5分位登つたでしょうか。梅の木平農場に到着。周囲は荒れ山でしたが、農場跡地は植林地になつており、その場所だけが明るく感じました。徒歩で上まで行くと、牛舎の跡地と確認草地だつた所には、ナラ・クヌギが植林されていきました。記念碑があり、「昭和58年本間記念造林地」と記され、2人は時の流れを改めて感じ、寂しさもありながら帰路に就きました。

根っ子入農場・梅の木平農場の由来について本校同窓会発行70年誌「風雪に耐えて七十年」を読み直し、辿ってみました。根っ子入農場は昭和16年から生徒全員で農場開墾実習として開墾が始まり、その後度々実施されたようです。その頃に卒業した方の思い出として、「根っ子入は学校から2キロ以上もあり、往復1時間以上もかかる。昼食

現在の根っ子入農場



梅の木平農場

（農業20回・大内支部）

後に出掛けると精々作業するのが2時間程度だ。唐鍬・鍬、それに自分達で編んだモッコでの作業であり、汗が目に入り、暑さで倒れそうになつたが、不平・不満を言う者もなく、約3か月で10アールを開墾し、ソバを栽培した。」と書かれていました。その後、昭和30年からは、本格的に失業対策事業で農場を造成、昭和39年に豚舎・鶏舎・管理舎が新築、8500平方メートルの草地が造成され、その後農場として私達の実習に利用されました。梅の木平には昭和40年に牛舎が完成、実習地として利用されました。この2つの実習地を実現するため、多くの同窓会の皆様の努力、地域の方々の応援があつたことも忘れてはいけません。機会があつたら訪ねてみてはいかがでしょう。



本校の使命

学校長

三塚 明彦

一 同窓生のご支援に感謝
 昨年4月26日のPTA総会に先立ち実施された親子研修会では、本校同窓生農蚕科第3回卒業の菊地 宏 氏から「我が人生」と題して講演を頂きました。菊地さんの人生を振り返りながらこれから社会に出る生徒たちに人生の教訓をお話していただきました。

また、昨年4月から本校商業科第7回卒業の菊地英昭さんには、剣道部を指導していただいております。

その他にも同窓生の学校評議員の方々をはじめ、PTAでは多くの同窓生の保護者の方々に大変お世話になっております。お世話になっております同窓生の方々に心より感謝申し上げます。とともに平成27年度もご支援をお願い申し上げます。

二 全国産業教育フェア宮城大会の開催

昨年11月に全国の専門高校で学ぶ生徒が集う「全国産業教育フェア」が宮城県で開催されました。総合学科の本校も農業・機械・情報・福祉の4つの系列の生徒が大会運営、生産物の販売、作品の展示等で、準備から含め3日間で延べ110名が参加しました。

特にメイン会場である名取市文化会館の玄関に農業系列の生徒が白石工業高校とともに製作した「むすび丸」は多くの観客の目を引きました。また、全国ロボット競技大会でスタッフとして活動した機械系列の生徒やその他各部署で役割を果たした生徒諸君の活躍には素晴らしいものがありました。

参加した生徒にとって貴重な経験となりました。

三 創立100周年記念事業実行委員会の設立

さて、本校は、平成32年(2020年)に創立100周年を迎えます。伊具高の同窓生は、今年度の卒業生を加えると13700名を越え、ご周知のとおり各方面でご活躍されておられます。

今年の夏の総会では、多くの同窓生の参加をいただき、創立100周年記念事業実行委員会には実行委員会の設立をお願いいたします。実際に活動するのは、平成28年度に入ってからと思いますが、記念誌編集の作業は27年度から開始したいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

今年度は、活動を休止して

た支部で100周年に向けて動きだした支部もありますので、平成27年度も支部の活動の活性化をお願いいたします。同窓生の力を結集して創立100周年の節目を皆様でお祝いしたいと思いますのでよろしくお願いたします。

四 キャリア教育の充実

しかし、少子高齢化の傾向は、丸森町でも顕著で生徒の減少は避けられない状況です。ここ数年定員割れが続いています。が、これまで本校の地域社会への貢献は多大であり、今後100周年を迎える平成32年までは、本校の特色を生かし、なんとか今の1学年3クラス(定員120名)の体制を維持したいと思っております。

伊具高校の地域社会に果たす役割は、地域で活躍する人材を育成することです。そのため本校では、キャリア教育を推進し自分の意思と責任で進路を選択・決定する能力・態度を画的に育てることにつとめてきました。入学してから卒業まで進路指導部を中心に組織的に3年間を見通したキャリア教育に取り組む、一定の成果を挙げしております。今後も進路保証100%の目標を掲げ職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

進路保証とは、出口指導ではなく本人が進路選択の可能性を知り、自分で道を切り拓いてい

く能力・態度を育てることです。本校卒業生が地域社会に貢献できることが本校の使命であると思っておりますので、今後とも面接指導やインターンシップなどでご支援とご指導をお願い申し上げます。

平成26年度総会報告

8月10日(日) 午後2時

◎協議事項

- 一 平成25年度事業・会計報告並びに承認
- 二 平成26年度事業計画・予算案審議

三 その他

角田市内5支部(角田・藤尾・枝野・桜・北郷)の統合に向けて、準備が進められていることについての報告があった。来年度総会にて新支部設立の報告がされる予定である。



◎懇親会
 町内白木屋食堂 午後3時半
 総会には29名、懇親会には18名の方にお集まりいただきました。

総会では、6年後に迎える創立100周年に向けての準備が来年度から始まるのに合わせて、同窓会として協力していくことが確認されました。

また、懇親会では母校の思い出話や100周年記念事業についての思いが語られ、和やかな会になりました。

(事務局 鈴木英晴)



祝受章

瑞宝単光章

砂澤市雄様
(本科男子21回・金山支部)



このたび36年という長きにわたって消防団員として町の安全に尽力された功績に対し、瑞宝単光章を叙勲されました。おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

砂澤さんの学年は昭和17年3月に母校を卒業するはずでしたが、12月の兵役入隊に合わせる

同窓会の情報はホームページから

平成22年12月より本会のホームページを開設しています。内容は会長あいさつ・役員名簿・会則をはじめ、思い出広場としてフォトアルバムが掲載されているほか、母校の校歌や応援歌を聞くこともできます。また、事務局からのお知らせとして、総会や各支部の情報を随時掲載しています。会員の皆様にはぜひアクセスしていただき皆様の交流に活用していただければと考えております。



本会ホームページには「伊具高校同窓会」で検索していただくか、下のURLを利用してアクセスしてください。

URL <http://www.igukou.com>

かたちで16年12月に繰り上げ卒業となったそうです。母校の校舎が丸森小学校の東側にあった時代で、養蚕当番や気象観測当番などの宿泊実習が特に思い出深いそうです。本間校長先生のお話にもなり、普段授業で呼名する時に必ず生徒の顔を見て確認する先生だったことから、町で先生にお会いしたときには、必ず名前を呼んでもらえたそうです。

兵役は早生まれのため免れ、卒業後は農業をされていました。その後、消防団に入隊を勧められ、昭和26年から58歳になるまで、消防団員として、また、金山分団の副団長として活躍されました。特に大変だったの

は、団長・副団長になると、どんなに農作業が忙しくても、火災が発生すると必ず出勤しなければならなかったことだそうです。また、演習の際には、副団長が誰よりも早く会場に行き準備し、号令を掛けなければなりません。火災の現場ではガスボンベに火がつくと爆発するので、冷やしたりボンベに火がつかないようにしたりと苦勞が絶えなかったそうです。丸館中学校の火災の際には、消防車がいつもの演習のような感覚で校庭に入ろうとしたところ炎が渦巻いて入れず、反対側の河原に入ると砂地でタイヤがめり込むため、車を行ったり来たりさせ砂を固めて入るよう指示をされたそうです。30年余りの間には本当に多くのご苦勞があったのだと思います。

(事務局 鈴木英晴)

菊地 宏氏が 母校で講演会

関東支部長である菊地宏氏(農蚕3回卒・㈱ケーアールワン(不動産業)会長)が4月20日に母校のPTA総会の折に開催された親子研修会の講師を務められ、生徒・保護者約400名を前にお話しされました。菊地さんは母校創立70周年の記念講演でも講師を務められており、母校で講演いただくのは2回目になります。当日は母校在校時代の様子から、上京の経緯、不動産業界での活躍のことなどを話され、良い人生を築くためにどうすればよいのかなど、ご自分の経験を交えて分かりやすく講演いただきました。生徒および保護者の方々も、母校の現在と比較したり、成功した先輩の経験から学ぶことが多くあり、真剣に耳を傾けていました。

(事務局 鈴木英晴)



母校図書館へ寄贈

- 「世界遺産全12巻」 毎日新聞社
- 「日本の野生植物(全3巻)」 平凡社
- 「総合研究アメリカ全6巻」 研究者出版
- 「英語図詳大辞典」 小学館
- 「スポーツで楽しむアメリカ英語」 岩波アクティブ新書

小野正彦様

(普通5回・丸森支部)

先生は英語の教諭として母校に永年勤められたことから、英語関係の本を中心に数多く寄贈していただきました。語学に興味のある方にはもってこいの読みやすい新書サイズの本が22冊、英語の辞典関係が7冊、また、写真を多く取り入れた豪華な大型のカラーの書籍も3種ありました。



これからの後輩の学習に有効に利用されていくことを祈ります。ありがとうございます。ありがとうございました。

(事務局 鈴木英晴)

支部だより

桜支部の集い・懇親会

鈴木善一

(農蚕14回・桜支部)

平成26年2月20日(木)16時、場所は角田美よし家にて、伊具高校校歌を全員で合唱後に、第3回桜支部の集いが開催されました。司会進行は永山勝男氏にお願いし開会が宣言され、発起人の挨拶として私鈴木善一よりご出席を下さった方々への御礼の言葉を述べ、続いて同窓会会長の佐藤吉市さんにご挨拶いただき、6年後に創立100周年を迎えることなどが話されました。引き続き学校長の挨拶で学校の就職活動や部活動、100周年事業のことが話され、事務局の鈴木英晴先生からも近況報告がありました。

協議事項としての組織構成で、支部長に鈴木善一、副支部長に永山勝男氏、会計に渡部初子氏が承認されました。続いて各地区の世話人として、一区加藤義明氏、二区中畑正由氏、三区渡部初子氏、四区緑川義一氏、五区堀越憲治氏、六区永山勝男氏、七区鈴木善一、八区伊藤信子氏が紹介されました。各地区の名簿作成については今後の課題として、簡単な連絡簿を作成してはどうかということになりました。その他として、今

後、佐倉地区としての同窓会の持ち方や方法について話し合われました。定例にすべきか、開催時期はどうするかなど、年一回、または2年に1回などという意見もありました。

続いて懇親会に移りました。乾杯の音頭は中畑正由さんにといただきました。伊具高校はあと数年で100周年を迎えることから、記念事業の持ち方や準備のことなどが同窓会長や学校長、事務局から話されました。また、初代校長の本間先生がご苦労された話や、氏家校長先生・伊藤校長先生の時代の思い出話に花が咲き、更に寒中・風雨の中での通学や、実習時の苦勞など、このようなことに鍛えられて伊具高魂が育まれたことなどが話されました。本日に膝を交えて時間を忘れて酒を飲み交わし、同窓会桜支部の一人ひとりの絆が深まり、有意義な時間を過ごすことができました。

万歳三唱は遠藤君の音頭で、最後に伊具高校応援歌を全員で合唱して、閉会の挨拶を渡部初子さんが行い、無事終了することができました。本日に心から感謝を申しあげます。

角田支部から

小形とき子

(生活20回・角田支部)

平成26年5月31日(土)、角田市本町「中華料理かんの」の

2階大広間で、宮城県伊具高等学校同窓会角田支部総会及び懇親会が開催されました。佐藤吉市同窓会長、学校からは校長先生、事務局の鈴木先生にご出席いただきました。

三塚校長先生からご挨拶をいただき、母校の様子や後輩たちの本年度の多方面での活躍振りを話していただきました。

議事に進み、平成25年度の事業・会計報告、平成26年度の事業計画の提案があり承認されました。

毎年楽しみにしてきて、参加者が多い懇親会が始まりました。前年度と同様に北郷支部・桜支部・枝野支部の会員の方にも参加していただき、和やかな雰囲気

で盛り上がりました。その席で参加していただいた支部長さん達から、各支部の存続・活性化



化を考えると各支部を合併して角田支部に一本化した方が参加し易いし、同窓会本部から各支部でいただいている助成金も有効活用できるのではないかという意見が出され、検討してみよう価値があるという議論になり、懇親会は終了しました。

その後、7月と12月に現在活動している桜・枝野・北郷・藤尾・角田支部の合同役員会を開催し、合併についての意義を確認し、合併後の名称・会則・役員等について協議しました。今後、各支部において合併に向けて会員の皆様から承認を得なければなりません。

平成27年度の角田支部総会・懇親会は、平成27年5月30日(土)午前11時より、仙南シンケンファクトリー(角田市角田字流)で開催される予定です。

近隣支部の会員の皆様もお誘い合わせの上、ぜひご参加くださいますようお願いの紙面をお借りしてお願ひ申しあげます。

北郷支部活動報告

穴戸勝郎

(農蚕8回・北郷支部)

昨年、角田支部総会にお誘いを受け、楽しく参加させて頂きました。その自己紹介の中で、北郷自治センター主催で地域活性化の一環として、バイオリン演奏会弦楽二重奏コンサート開催のお話をさせて頂きました。

た。当日は、北郷地区振興協議会、北郷地区老人クラブ連合会共催で、地域の大勢の方々バイオリンの調べに耳を傾け大喝采で、参加者も合唱する場面も多くありました。

バイオリン演奏者
菅田邦穂先生 丸森町在住
正金寺節子様 柴田町在住

菅田先生の生徒だった伊具高校昭和43年卒同窓会北郷支部大橋かよ子さん(現在北郷地区交通安全母の会会長)より恩師に花束を贈りました。

恩師の菅田先生の紹介と出を一言大橋さんをお願いし

大橋かよ子

(生活19回・北郷支部)

6月のある日、北郷自治センター長から「今度自治センターでバイオリンの二重奏コンサートを開くから聞きに来てね。」



と声をかけられました。名前を聞いて「あれ、知っている先生と同じ名前だ。もしかしたら私の高校の時の恩師です。」とセンター長に話しました。嬉しくて嬉しくて友達にも連絡し興奮状態でした。部活が一緒だった同級生にも電話したら、「俺、丸森の齋理屋敷でコンサートを開いた時行ってきたんだ。その時花束を贈り喜びの再会をしたんだ。」と聞きました。そういえば、月の便りで丸森に住んでいると聞いたような、すっかり忘れていました。

私が菅田先生とお会いしたのは高3の時、今から45年も前のこと、当時音楽部だったので部活の顧問としてです。若くて大卒の今で言うイケメンです。目が凄く印象的でした。教えていただく姿は本当に一生懸命でした。大きい声で怒鳴られた記憶もなく楽しい部活でした。みんな従順でしたね。

いよいよコンサートの始まりです。すぐ目の前で聞くバイオリンの音色に魅了され、思い出の詰まった涙が静かに流れました。曲の合間のトークも楽しく、皆さん大笑い、目が昔と変わらなく、ご苦労もあったと思いますが、ステキな人生でステキなコンサートでした。コンサート終了後は伊具高校同窓会が用意してくれた花束贈呈です。感無量でした。私のことを思い出すのに夜中の3時までかかったこ

大張支部総会

大槻 孝雄

(農業20回・大張支部)

平成26年7月25日(土)、丸森町あぶくま荘にて、平成26年度宮城県伊具高等学校同窓会大張支部総会が、佐藤吉市同窓会長、学校からは三塚校長先生、事務局の鈴木先生にご出席をいただき開催されました。

最初出席者全員の自己紹介後、佐藤会長より祝詞をいただき、その中で今後少子化が進み入学予定者の減少、さらには定員割れが続くことへの心配から地域の高校としての存続のためにも、同窓会の結束・協力をお願いがありました。校長先生からは母校の様子や後輩達の本年度県総体・仙南総体での活躍ぶりをお話いただき、さらに進路保証100%を教職員が一丸となり達成しているというお話を伺いました。参加者からは我々の時代より頑張っているなどと称賛の声や、学校の変化に

驚いたり、校長先生の話が聞けて良かったという感想が数多く聞かれました。議事に進み、平成25年度事業・会計報告、26年度事業計画、役員選任、会則の提案があり承認されました。

その後場所を変えて懇親会に入り、総会よりもコミュニケーションを大事にする大張が丸出し。参加者は20名でしたが、大張に住んでいても初めて会った同窓生などもおり、話に夢中になっていたり、カラオケを歌う人、挙句の果て隣席で懇親していた保科町長を吉市会長がお連れして、さらに盛り上がりました。2時間半もあつという間に終わり、大変有意義な支部総会を行うことができました。これも会長はじめ校長先生、鈴木先生、会員皆様のおかげと感謝しております。

大張には初老、還暦の厄年に、厄を払ってあげる、あるいはお祝いをするという風習があります。今年には農業科25回卒、一條正敬、佐藤勝廣、佐藤俊彦、穴戸信夫様方が還暦を迎えました。写真は、大張農友会の皆さんが祝ってあげた時のものです。



ふるさと 大内支部総会開催

宮本 昭雄

(農業21回・大内支部)

伊具高等学校同窓会大内支部は、昭和25年頃の発足と先輩諸氏から伺いました。実に65年の歴史を重ねると共に、多くの支部会員のご努力により、地域の繁栄が保たれてきたことを実感するところがあります。

昨年の8月23日、支部内の飲食店で3年ぶりの支部総会が開催されました。わが支部総会は、年1回の規定から、随時必要な時に開催と、前回の総会において改正しました。

規定に基づき、役員任期満了に合わせて、新たな役員選任と、会計報告を主議題として開催したものです。当日は、支部会員でもある佐藤吉市同窓会長と、三塚明彦校長の臨席も賜り、議事終了後には、支部の大きな目的の一つでもある、会員相互の親睦を深めるための懇親を、和やかなうちに過ごし、今後の母校発展の願いを深める会となりました。

校長の挨拶からは、少子化にともなう学校運営の課題なども伺ったところです。

ニーズの高い教育の実践で、存在意義を高める取り組みと、地域貢献・期待される生徒の育成という母校教育目標達成に、関係者一同の努力が望まれると思っております。

私ごとではありますが、平成23年度の支部総会において、会計幹事に推薦いただき、以後その任に当たっております。通帳引継では先々代の会計が我が父親という、親子2代にわたっての役割となりましたことも、伊具同窓会の連綿とした継続を深く感じるところであります。

くしくも、2020年の東京オリンピックの年に、学校創立100年を迎えることになりましたが、学校の悠久の発展のために、微力ながら支部としての役割を果たせればと思っております。

大内地区遠景



母校だより

二度目の勤務に 改めて進路指導を 考える

教頭 三浦 浩

東日本大震災の翌年、平成24年4月、甚大な被害を受けた南三陸町の志津川高校に教頭として赴任し、2年間震災からの復興・復興に力を注ぎ、国内外から多くの支援と激励をいただいた。進路指導においては受け入れ事業所が壊滅的な被害を受けており、インターシップを中断していた。志津川高校は進路指導先進校で、本校の「3年間の見通した進路指導計画」を策定するにあたり、16年3月、私が学校視察に伺い、多くの指導・助言と17年4月からの導入に勇気をいただいた学校である。5年待っても志津川の復旧・復興は難しい。だからこそ、インターシップの早期再開を強く求めた。将来の町の担い手である高校生が町に元気を与えると思っていた。25年3月に2年生の就職希望者を、9月に新2年生全員を対象に実施し、大変好評であった。

私は15年4月から21年3月までの6年間本校に教諭として勤務し、「進路保証100%」を目標に掲げ、「3年間を見通した進路指導計画」を策定し、5

年間進路指導部長を務めた。総合学科に改編したものの当時は「出口指導」に終始し、進路指導室は活用されず、進路指導部としての機能が果たされていない状況であった。進路指導が年次や担任に委ねられ、年次により温度差が大きくデータの積み重ねがなかった。企画委員会（現校務運営委員会）を始め、進路指導のあり方に疑問を抱く職員が多く、改革が求められていた。耐えきれず、12月、私案を企画委員会に提示し、見直しに着手した。内容は16年1月に文科省が出した「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために「」に沿うものとした。3月に計画の策定を終え、4月から私が部長としてその遂行にあたった。日頃から次の点に留意した。①進路指導部の計画に基づき、担任・年次が主体的に生徒を指導する。生徒について知り得た情報は共有する。②生徒が自らの意思と責任で進路を選択決定する。ために、教師は決して具体的な企業や上級学校に導くことはせず、じっくり待つ。③「高校での進路選択が人生において最も大事な進路選択」と位置づける。④保護者が真剣に生徒と向き合うために必要な知識と情報を学習会等を開催し提供する。⑤進路指導の不徹底は生徒の問題ではなく、教

師の問題と捉える。⑥生徒がどんな姿・格好をしようとも進路相談に乗り、助言する。⑦教師が主体的に進路行事を遂行し、業者を頼らない。

26年4月、私は6年ぶりに教頭として本校に戻った。クラス数は1クラス減り3クラス、系列は2系列減り4系列となり、ほとんどの進路行事が以前と同様に行われ、毎年素晴らしい進路実績が収められている。先生方の指導と生徒たちの頑張りの賜物である。今後は、自責の念も込めて、次の点で対応をお願いしたい。①学校行事・総合的な学習の時間の時数の膨大化と授業時数削減の解消を図る。②応募前職場見学・オープンキャンパスの長期休業中の実施を徹底する。③生徒・保護者・教師の進路意識の高揚を図る。④卒業予定生徒の生活の乱れへの対策を講じる。⑤進路行事の「量より質」への転換を図る。

同窓生の皆様には日頃から本校生徒の教育にお力添えをいただき感謝申し上げます。生徒が成長するためには大人と接することが必要不可欠と考えます。未熟な生徒ではありますが、今後ともご指導いただきますようお願いいたします。我々教職員も頑張ります。

産業教育フェアに参加して

3年 佐々木 千沙

私は今回行われた全国産業教育フェア宮城大会で、農産物の販売と菊の花でむすび丸の制作を主に行いました。大会には本番を含め4日間参加しました。

1日目は駐車場の整備、2日目はむすび丸の制作を行いました。むすび丸は白石工業高校との合同作品で、白石工業の生徒がむすび丸の土台を作り、私達は菊の花で仕上げを行いました。

菊の花は、今回の産業教育フェアに向けて夏の始まりと共に栽培を始め、2回の鉢替えや雑草の防除、病害虫の防止など、さまざまな管理を行ってきたものです。2日間会場の入口に飾るため、枯れてしまう心配があり、水分が必要とされるので、コップに水をしみこませ、爪楊枝とセロハンテープで固定させるという作業を行いました。細かい作業でも大変でしたが、完成した時には喜びと達成感でいっぱい、みんなで盛り上がりました。

本番当日、私は農産



生徒の活躍

- 仙南総合体育大会
 - 剣道男子団体 第2位
 - 剣道女子個人 第3位 長岡香耶
 - 岩沼市武道大会
 - 弓道個人高校男子の部
- 仙南高校美術展
 - 優勝 勝太田了允
- 全日本吹奏楽コンクール
 - 奨励賞 只野睦美
- 県大会予選名取・仙南地区大会
 - 高等学校小編成の部銅賞
- 県学校農業クラブ連盟各種大会
 - 家畜審査競技肉用牛の部 優秀賞
- 高野山競書大会
 - 高野山書道協会賞
 - 推薦 小野美妃
 - 推薦 相原千織
 - 推薦 山本 玲
 - ふれあい書道展
 - 特選 引地まどか
- 全日本選手権卓球ジュニアの部
 - 仙南地区予選
 - 女子シングルス 第1位 和田萌
- 2014電気自動車
 - エコラン競技大会 in SUGO
 - 四輪車部門 優勝
 - 電気機械部
- ジュニアクラス 第6位
 - 電気機械部
- 仙南新人大会
 - 柔道男子個人 +90kg級
 - 第3位 大槻英人
 - 卓球女子シングルス
 - 第3位 和田 萌
 - 剣道男子団体 第3位

物の販売と農学系列のブースでの説明を行いました。県内の農業高校の生徒・先生方と一緒に活動したため、学ぶことも多く、また、楽しく活動することができ良かったです。翌日も同じ活動内容でした。空いた時間に、他校の学校紹介のブースを見に行き、他校の様々な活動を知ることができました。

今回、この大会を通じ、県内外の生徒・先生方と関わり、たくさんの方の活動を知ることができたことは、これからの私の生活の大きな糧になると思います。また、農学系列で3年間共に学んできた友人と1つの作品を作り、大きな喜びと思いつくことができました。この4日間の大会に関わることができ、大きく成長できたような気がします。

全日本選手権 ジュニアの部仙南地区 予選に優勝して

卓球部 2年 和田 萌

ジュニア大会での試合は、ミスをするのが怖くて責めることができませんでした。今まではずっと繋げて繋げて相手のミスを待つというプレイでしたが、この試合で相手のミスでポイントを取らなければならぬと言ったことを痛いほど感じました。試合の後のアドバンスの時、「打とうとしないから打てない

んだ。」と言われた時、自分がどれだけ自分を甘やかしていたのかを思い知らされました。

次の試合の開始の言葉が発せられた時、私の頭の中は責められるか、で葛藤していました。責めればミスする可能性が高くなる。守って相手のミスを待たばポイントを取れる自信があるが、また同じことを言われてしまう。究極の選択でした。この時、もっとドライブ練習をしていれば良かったと、ものすごく後悔していました。今のプレイや考え方、戦術では県大会にも通用しないし、仙南の人たちにも通用しなくなるので、自分が変わっていかないといけないということ、状況判断と予測、相手をきちんと見ることが大切だということなどを学びました。これから一生懸命努力しても、苦しい練習をしても、必ずしもそれで優勝できるとは限りません。しかし、はつきりしていることは、誰よりも厳しい練習をし、自分に勝たなければ決して勝利はないということ。優勝とは結果であり、努力しなければ成し遂げられないものだ、改めてこの試合で痛感しました。



つぎの大会ではもっと練習してれば良かったということ。少なくし、これらのことを「思いのまま」や「思いました」で終わらせずに行動に移し、次も結果を残せるように頑張ります。

県ベスト8、 シード権を 得ることができて

剣道部 2年 加藤 貴士

私は昨年に行なわれた宮城県高等学校剣道新人大会において、個人戦でベスト8になることができました。

普段の部活では、基礎的な練習から試合を想定した応用的な練習、打ち込みなどをしていきます。また、顧問の津藤先生と泉田先生から稽古をいただいたりという内容で稽古をしています。更には、遠征に行ったり、合同稽古会、錬成会にも出向いたりしました。

私は中学校から剣道をはじめ、丸森東中から丸森中へ統合してより高い所で剣道をしてきて、伊具高校へと入学をし、卒業された先輩や3年次生の先輩に稽古をつけていただき大変お世話になりました。仙南総体で男子団体準優勝、新人大会では3位と好成績を残すこともできました。先輩方は大会前の団結力が素晴らしく、私もレギュラーとして気持ちがとても高ぶっていたのを覚えています。また、稽古は真剣であっても、いざそれ

が終わると楽しく笑顔でいることができました。先輩に本当にたくさんの方を教えていただきありがとうございました。引退されてからも生かしていただけることばかりでした。津藤先生が稽古中におっしゃっている「明日に繋ぐ」という言葉があります。その言葉通り、先輩方は私達につないでくれたのだと思います。

先輩方が引退され、本当にいろいろなことがあり、辛い時期もありました。ですが、どんなに小さいことでも一つひとつ原因を追究し、やれた結果が今回の成績に繋がったのかと思います。先生・先輩、また、仲間のおかげで成長でき、強くなることができ、このようなことを感じられるようになりました。これからと言っても残り半年ほどしかないのですが、感謝の気持ちを忘れず、残りをみんなと頑張りたいと思っています。



県民体育大会柔道競技

段別柔道選手権大会
一般男子無段の部
第3位 大條良太

東北地区並びに宮城県高校生
介護技術コンテスト
奨励賞
宍戸美菜
中島友希
板橋美喜乃

手作り自動車省燃費競技大会
高校の部 敢闘賞
電気機械部
生徒活動成果発表会
展示発表の部 奨励賞
電気機械部
高校生ものづくりコンテスト
宮城県大会
旋盤作業部門優良賞
山戸田一揮

県高校生選抜書展
特選
相原千織
齋藤陽奈

秀作賞
宮城野書人会学生展
記念賞
小野美妃

県高校書道展覧会
第一部特選
小野美妃
山本 玲

特選
全国学生書道展
半紙の部 優秀賞
小野美妃
半切2分の1の部 優秀賞
高原由佳

仙南高校写真展
銀賞
吉田七海

県高校家庭クラブ連盟
研究発表大会
学校家庭クラブ活動の部 優秀賞
県高校生徒理科研究発表会
優秀賞
仙石洗智
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

研究発表大会
優秀賞
大川口竜也
櫻井瑞穂
渡邊 愛

会員の声

第96回全国高校野球選手権大会宮城大会 観戦記

穴戸 富夫

(普通2回・塩釜市)

夏の高校野球甲子園大会の正式な呼称が標題である。私は昭和28年3月、当時の伊具農蚕高校普通科第2回卒業生で、今年傘寿を迎えた同窓生です。特に趣味もなく、サラリーマン時代はただ一筋仕事のみ、祝祭日もなく働いた時代が我々の世代です。平成10年7月、定年を2年延長し退職する。当時は小生大変困りました。如何にして一日を過ごすか。賭け事、酒、麻雀は全くだめ人間なり。孫が平成18年4月、小学校に入学し、3年生より6年生まで4年間少年野球部に入り、中学進学後も野球を続けている。よって近年は野球観戦及び応援に徹し、春のシーズン到来と共に小中高の試合に心を踊らし、一人で気ままに日程を作り、塩釜市内はもとより仙台市内の球場にも足を運んでいる。

さて、本論に入ろう。平成26年7月10日、仙台市民球場にて2回戦、母校対塩釜高観戦のため、夜来の小雨止まず中止される事も考えながら朝早く出かける。球場整備後シートノックもなく、午前9時5分、予定通り降雨の中で試合開始となる。塩釜高は本大会第4シード校である。観戦応援となると結果論で批評あるいは解説者のとなり、心苦しく失礼な表現となり申し訳ない気持ちです。監督・コーチされている先生は長年にわたり高校野球に携わり、選手と共に努力を重ねている。年に1回くらいの観戦ではチーム全体の姿は掴めず大いに苦慮するところ。試合は3回裏の攻防で勝敗が決まったと言っても過言ではない。相手校に四球を与え、その後バント処理がまずく、1死2・3塁のピンチを迎える。投手及び内野手の心の動揺を見抜かれ、レフト前にライナーで安打され1失点、更にワイルドピッチで1点を献上する。以後、打線が沈黙、両校共に健闘し、4回以降両校投手の踏ん張り度9回まで無得点で終了となる。3回裏の守備で間を取るペンチより守備のタイムの要求もなく、内野手もマウンドに集まり声を掛け一呼吸つく場面もなかったと思う。3回まで3本の安打を打ちながら、拙攻で生かせず、以後安打なく打者は内外野への飛球と三振のみ(三振8・失策2)、打者としての工夫が足りず0対2で惜敗する。トーナメントの短期決戦の先手必勝の原則は見事に覆され、勝利に結びつかず、小雨の中本大会最短試合1時間36分、併せて私はベスト3に数えられる好試合だったと思う。仙南地区高校野球界でドカベンと言われる中野投手を中心に、もう1年この

チームでと考えたのは私1人でしょうか。全く残念で悔しい一言に尽きる。加えて何故か仙台市民球場での試合は母校野球部にとつては鬼門である。前年度平成25年の第95回大会も、3回戦で仙台一高に逆転で敗れている。当日、朝早く球場に着き、奇しくも彼と偶然に逢い、激励の言葉をかけ、彼より「頑張ります。」と力強い返事をもらいます。

母校の野球部の歴史は第41回(昭和34年)、第44回(昭和37年)の2回、県大会ベスト8に進出している。半世紀50年前です。因みに昭和27年3年生の時私達普通科(30名)より野球部選手9名中7名が正選手として活躍した。投手・菅野良男(大内中出身)、捕手・目黒重徳(金山中出身)、一塁手・猪股正士(耕野中出身)、二塁手・一條文夫(三三手・原達男(金山中出身)、遊撃手・佐藤毅(大内中出身)、左翼手・佐藤末夫(大張中出身)、中堅・右翼は下級生であった。既に菅野・猪股の両氏は故人となつている。62年前の懐かしい思いの頁である。なお、三三手の原達男氏は、昭和30年代、青森一東京駅伝(現在の駅伝ブームの原点でもある)大会があり、北海道・東北・東京都を始めとする周辺の県別対抗で、当時仙台簡保局に就職された原氏が、宮城県代表で何回か出場したことが記憶に蘇る。彼の小さな身体で俊足と強肩で、伊具の大黒柱であった。終わりに野球部を始め、各運

動部で活躍されている生徒諸君、支援をして下さる監督、コーチ及び家族の皆様感謝の念を忘れることなく邁進して下さい。母校の発展を祈りペンを置きます。

注)文中お名前を拝借した各位、事前のお断りせず申し訳ありません。お許し願います。一部敬称を省略させていただきます。

こんにちは、丸森 ウィンドサークルです

戸村 香

(総合8回・北郷支部)

私は平成21年にこの伊具高等学校を卒業しました。高校3年間の中で一番の思い出は何かと訪ねられたら、迷うことなく部活動と答えます。

私は高校3年間、吹奏楽部に所属してました。卒業し半年程過ぎたころ、吹奏楽部時代の先輩に声をかけていただき、丸森ウィンドサークルに入りました。現在は、会長を務めさせていただきます。

丸森ウィンドサークルは、平成21年に結成され、現在は6年目に至る、宮城県で見れば初めての吹奏楽団です。この伊具高等学校吹奏楽部の卒業生を中心に結成しました。楽しい演奏をすることを目標に、主に丸森町のイベント等で演奏活動をしています。上は60代、下は20代と幅広い年代で、時には現伊具高吹奏楽部のみなさんと演奏をさ

せていただいています。もちろん、伊具高等学校出身ではないメンバーも、高校時代は吹奏楽部に所属していません。メンバーも在籍しています。

高校時代の先輩や後輩、同級生、在校生と繋がりをもち演奏ができることは、私にとって大きな喜びです。ひとつの音楽を仲間達と造り上げるといふことはとても楽しく、充実した日々を送っています。

毎週日曜日、18時半より、丸森まちづくりセンターで練習をしていますので、興味のある方、高校時代に吹奏楽部に所属していた方、もちろん、初心者の方でも大歓迎です。ぜひ見学に来てみてください。



同窓会事務局 鈴木 英晴